

事例報告

合同会社 十勝とやま農場

外山 聖子 氏



★私の揺るぎない想い★

- ①食卓に笑顔の種を届けたい
- ②農業は可能性を秘めた素晴らしいフィールドである
- ③1 始めなければ10にも1000にもなり得ない
- ④農業後継者育成とは、農業の担い手の育成に留まらず、国内農業の応援団の育成をも意味する。つまり国民一人一人が広義の農業後継者である



■事業プロフィール

1990年：じゃが芋・南瓜の産地直送開始（50箱）。その後お客様の声からアスパラガス・スイートコーン・豆類と品目が増え、現在事業収入の20%を占める。

ファームステイの受け入れ（首都圏の中高校生約350名）2016年：トレーラーハウスを改築した民泊Route55をエアビにて開始。

2018年、築40年になる小屋を改装したファームインBieiを開始。2022年after コロナを考えRoute55にサウナを増設。クラファンに挑戦し230万円を集め目標達成。蒸し宿カンノンサウナとして営業開始。

■取り組みのきっかけと現在

十勝の典型的な畑作農業を営む我が家が南瓜の栽培により市場出荷が始まる。その後「外山さんの南瓜美味しいから親戚に送りたい」との依頼から産地直送が始まる。その際農業の抱える課題解決の糸口は顔（存在）の見える関係にあると家族新聞を発行（現39号）し農産物に同封する。お客様から寄せられる美味しいやありがとうの声が営農のモチベーションアップに繋がり、トン（t）からグラム（g）へと意識が変化した。

一方で“一緒に考えてみませんか？私たちの生命や食べ物のことを”をキャッチコピーに、開かれた農場としてファームステイの受け入れや収穫体験などを実施。2015年長男に経営移譲し、新たに“食卓に笑顔の種を届けたい”をモットーに届ける+訪れる、過ごす場所として民泊事業を開始。農場体験のオプションやリトリートツアー、パン屋誘致等訪れるきっかけを増やし農を伝える活動を世代を超えて続けている。

■笑える！or 泣ける！事業エピソード

『1 初めなければ10も1000にもなり得ない』産地直送を始める時に夫に言った言葉です。

夫が急死した際、産地直送で母性の農業（お客様の顔が見える農業）をしていなければ、十勝の父性の農業（大型農業）に“できない”を選択したことでしょう。お客様の存在が私を農業者として再生してくれ、1 始めてみようと思いを播くことを選択できました。

■私の思う事業継続のポイント

『家族はチーム』すべては人が作るもので担い手が変われば変化は免れないと思います。

むしろ農業は100人100様の可能性に溢れています。家族がチームとなってそれぞれの個性を活かし合い、社会に貢献していくことが大切だと考えます。

■これから事業を立ち上げる人へのメッセージ

失敗を恐れずにもまず1 始めることを選択して下さい。1 始めたことですぐに100になることもあるかもしれないし2に、あるいはマイナスに後退することもあるかもしれません。

どんなビジョンを描いてもやってみなければわからないと思っています。トライアンドエラーを繰り返しながらも諦めずに目標に向かって進んで下さい。

加えて家族や友人、知人に想いを伝えてみましょう。反対されるかもしれませんが案外賛同し応援してくれるかもしれません。伝えてみなければわからないのです。

発信することは自問自答の繰り返しでそのことを通して想いが精査されていきます。発信するから受信できるのです。発信を通して気づき受信を通して気づかせて頂けます。人との出合いや繋がりを大切にして下さい。すべては人が運んで来てくれたと感じています。



TOKACHI
TOYAMA
FARM
SINCE 1917

農場HP


**食卓に笑顔の種を
届けたい**

Amazon Kindle版
『土に生まれ 土に生き 土に帰る
～外山勝則を偲んで～』第3版
¥500

電子書籍の注文
はこちらから

 YouTube
十勝とやま農場TV

 Spotify
農家のヨメ?!の
ふたりごと

